行政視察報告書

平成27年5月25日

笠岡市議会議長　殿

（出張者）議員　藤井 義明　㊞　議員　　㊞
議員　馬越 裕正　㊞　議員　　㊞
議員　蔵本 隆文　㊞　議員　　㊞

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

【1】　鹿児島県県　薩摩川内市議会

住　所	鹿児島県薩摩川内市神田町3-22
電　話	0996-23-5176
視察案件	「甑島における医療体制のあり方」について
期　日	平成27年　5月21日（木）　13時00分 から 14時30分 まで
応対者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	薩摩川内市議会会議室
概　要	薩摩川内市甑島は、川内川河口から西方約２６kmの東シナ海に位置し、南西方向に約３５kmに連なり、上甑島、中甑島、下甑島の３島で形成。上甑島と中甑島は架橋でつながっており、現在中甑島と下甑島の架橋の建設が進められている。工費は２２０億円で、最も深いところで約２０m である。近い将来は、架橋の存在で１島と考えても良い。人口は３島合計で、約６，２００人である。しかし、過疎化の波はここに置いても例外ではなく、２０年後には、約３，９００人と推計されている。 このような状況下に置いて、現在常設の診療所が７施設(内２施設は入院機能を持つ)。出張診療所が６施設ある。その中にはCT装置(2)、X線テレビ装置(4)等、離島とは思えない装置もある。

	課題としては、医師の確保、人口減少に伴う診療所の再編、財源の確保が問題としている。医療従事者確保の手段として、代診医派遣制度(２５年度実績１０回１２名)、卒業臨床研修医の受け入れ(２５年度実績１７名)、甑島地域医療従事者等奨学資金貸与事業等の努力を重ねている。 今後は、架橋による３島が陸続きになることで、少し規模を大きくした施設を2施設位で運用していこうとしている。数を減らし、内容の充実を目指す方針である。それにより、医療従事者の不足も補えると考えている。 また別の観点から、今年甑島が、国定公園の指定を受けた事もあり、観光事業の強化により、地域の産業を増やし、若者の定住を図ろうとしている。
添付書類	○視察資料　○視察状況写真　○名刺

(個人行政視察用)

名　刺

薩摩川内市議会

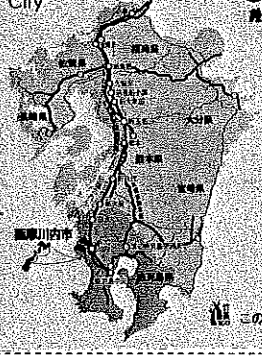
議長

上野一誠

〒895-8650
鹿児島県薩摩川内市神田町三番二二号
電話（〇九九六）二三―五一一一
FAX（〇九九六）二三―五〇一五

この紙は、国産竹100%です。（中越パルプ工業株式会社川内工場）

Kagoshima
Satsumasendai
City



薩摩川内市議会事務局

議事調査課
管理調査グループ

榎並淳司

〒895-8650
鹿児島県薩摩川内市神田町3番22号
TEL（0996）23－5176
FAX（0996）23－5015
E-mail:J.enami@city.satsumasendai.lg.jp

この紙は、国産竹100%です。（中越パルプ工業株式会社川内工場）

薩摩川内市　市民福祉部
市民健康課

課長　檜垣淳子

〒895-0055 鹿児島県薩摩川内市西開聞町6番10号
TEL（0996）22－8811
FAX（0996）22－8038
E-mail:j.higaki@city.satsumasendai.lg.jp

薩摩川内市
市民福祉部　市民健康課

主幹
羽田美由紀

〒895-0055
鹿児島県薩摩川内市西開聞町6-10
（すこやかふれあいプラザ）
TEL（0996）22－8848
FAX（0996）22－8038
携帯090－9602－0779
E-mail:m.haneda@city.satsumasendai.lg.jp

【２】　鹿児島県　薩摩川内市 下甑手打診療所

住　所	鹿児島県薩摩川内市下甑町手打 956
電　話	09969-7-0031
視察案件	「下甑手打診療所」について
期　日	平成 27 年　5 月 22 日（金）　10 時 00 分 から 11 時 30 分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	薩摩川内市下甑手打診療所
概　要	下甑手打診療所は、甑島３島の中で、入院機能を持つ診療所(全部で２ヶ所)である。病床数は、診療所としては、限度一杯の１９床である。昨年は全身用Ｘ線 CT 装置を買い替えている。人工透析も５台設置していて、患者数に対して、何とか対応できている。規模的には、陸地部での小型病院のようである。 平成２５年度入院患者数は４，９２７人、外来患者数は、１１，８２５人で、視察に行ったときにも外来患者は２０人余りであった。決算に置いては、歳入２億６，４６５万円のうち一般会計からの繰入金は７，５００万円余りである。 この島の特徴は、平野部が少ないため、高台に位置している。そのため高齢者には、海沿いのバス停から約２００ｍの通いが困難なため、診療所からバス停までの送迎を行っている。 事務局長との話において、市の方針として架橋による陸続きになった場合に、診療所の統廃合が予定されている件を伝えたら、「ある程度の統廃合、それに伴う診療所の高機能化は良いが、高齢者が多いため、通院手段の確保をどうするかが課題である。」と述べられていた。
添付書類	○視察資料　○視察状況写真　○名刺

薩摩川内市下甑手打診療所　概要

□診 療 所 名：薩摩川内市下甑手打診療所

□開　設　者：薩摩川内市

□所　　長：瀬戸上　健二郎（セトウエ　ケンジロウ）

□所　在　地：薩摩川内市下甑町手打９５６番地

□開設年月日：昭和３５年　４月　１日（市町村合併：平成１６年１０月１２日）

□診 療 施 設：昭和６１年　４月　１日　鉄筋コンクリート２階建て　910.00 ㎡

平成１３年１２月１５日　透析治療室増築　鉄骨建　50.50 ㎡

□病　床　数：１９床　（一般病床）　（診療所最大数が19のため）

□診 療 科 目：外科・内科・小児科

□主な医療機器：全身用Ｘ線ＣＴ装置（H26年買替）、Ｘ線透視撮影装置、Ｘ線一般撮影装置

Ｘ線画像デジタル化処理撮影装置、電子内視鏡、超音波診断装置

人口透析装置、遠隔読影装置

□付 帯 施 設：〔出張診療所〕下甑片野浦出張診療所、下甑瀬々野浦診療所（週１回診療）

医師住宅、医療従事者住宅（世帯用１戸、単身用３戸）

□職　員　数：医師１名、看護師１２名、事務４名、その他８名　　計２５名

□平成 25 年度患者数：入院４，９２７人　外来１１，８２５人　　計１６，７５２人

□救急患者島外搬送　：　平成 25 年度　年間　２９件

搬送手段：　船　　舶　１９件

ヘリコプター　１０件（ドクターヘリ７、自衛隊３）

□平成 25 年度決算

歳入：264,652 千円〔診療収入 185,968 千円、繰入金 75,374 千円（その分担（鹿児島市立病院））、その他 3,310 千円〕

歳出：264,652 千円〔総務費　168,433 千円、医業費 91,967 千円、その他 4,252 千円〕

□主 な 事 業：在宅医療、人工透析（→5台（現在以.））、特定健診、一般健診、人間ドック、予防接種

□卒後臨床研修医の受け入れ

鹿児島大学病院、鹿児島市立病院、沖縄県浦添総合病院、南風病院

鹿児島医療センター、宇部興産㈱中央病院

【受入実績】　平成 23 年度　１８名、平成 24 年度　１６名、平成 25 年度　１７名

□医学生等の研修受け入れ：

鹿児島大学、岡山大学、自治医科大学、その他

【受入実績】　平成 23 年度　２５名、平成 24 年度　２６名、平成 25 年度　１９名

名　刺

薩摩川内市
SATSUMASENDAI CITY
市民健康課　下甑手打診療所
事務長
松　田　貞　広
〒896-1601
鹿児島県薩摩川内市下甑町手打956番地
TEL(09969)7−0031
FAX(09969)7−0362
E-mail:s.matsuda@city.satsumasendai.lg.jp

【３】　鹿児島　県　甑島３島

住　所	鹿児島県薩摩川内市　甑島３島全体
電　話	
視察案件	現地視察（現地の状況調査　診療所、地理的現状）
期　日	平成 27 年　5 月 22 日（金）　13 時 00 分 から 19 時 00 分 まで
応 対 者	無し
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	上甑島、下甑島の診療所 下甑島、上甑島の交通アクセス調査
概　要	午後からは、点在する他の一般的な診療所を見て回ったが、イメージしていたものより大きいものであった。平成１６年に合併する前の村の時代に、県が主導的に整備していたことで住民にとっては良かったのであろう。 午後からは、下甑島における点在する診療所の集落規模と位置を点検する。高い山が多く、集落から集落への移動は山道で時間を要す場面が多かったが、島には珍しくいくつかの大規模なトンネル（２車線）が作られていた。 午後４時に上甑島に移動し、車で島内を移動した。島の北部と南部は高い山で遮られているが、近年トンネルの開通により１０分程で移動可能であった。上甑島と中甑島とは架橋でつながっており、里港から北部に行き、トンネルを使い中甑島との架橋までの約３０㎞は、４０分程で移動できる。上甑島、中甑島においては、下甑島と比較して交通の便は大変良いものであった。そのため救急体制に時間的効果は大きいといえる。また、２年半後には、中甑島と下甑島が架橋で繋がり、車での陸上移動は画期的に向上する。 以上の地理的利便性の高まりのなかで、島に点在する 15 の診療所の統廃合計画も、機能性を高めた施設に集約し、医師、看護師不足の解消と、現在より高度な医療体制が実現するであろうと考えられる。 笠岡市の７島より人口規模も大きく、原発、自衛隊のおかげによる財政的な豊かさもあり、大規模な公共工事が可能となっているため、道路整備、トンネル、架橋等の整備で、３島が一体化できるが、笠岡市では同じような環境作りは望めそうにない。しかし、島民の連携の強さにおける課題解決の動きは参考にすべき事柄であった。 （例）高校がないため中学校で島を出ていく子どもたちに、中３の子どもたちと作った焼酎「島立ち」を毎年作り、島の子どもたちとの絆を深めている。また、島から出る先輩に、後輩が堤防から海に飛び込み別れを惜しんだりしている。
添付書類	視察資料　○視察状況写真　名刺